

事務事業評価シート

事業番号	48					
事業名	ふじの体験の森やませみ(野外体験教室管理運営費)	局名	教育局			
		部名	学校教育部			
事業開始年度	平成22年度	課名	相模川自然の村野外体験教室			
根拠法令等	相模原市立野外体験教室条例	所属長名	青木正利			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: 相模トライアム(株)他) <input type="checkbox"/> 補助金(補助先:) <input type="checkbox"/> その他()					
	目的 (何のために)	体験学習及び集団宿泊生活の中で自然や人とふれあうことにより、児童・生徒の創造性、主体性を培い、豊かな心を育むことを目的とする。				
	対象 (誰・何を対象に)	施設利用の対象 (1) 小学校、中学校、中等教育学校等(教育課程の一部として) (2) 青少年団体、青少年育成団体等				
	事業内容 (手段・手法など)	<施設概要> ○緑区の豊かで広大な自然を生かし、自然から学び、自ら自然に働きかける活動などを展開する施設 ○30種類以上に及ぶ体験メニューを整え、「生きる力」を育てる学校の教育活動の一環として、さがみはら教育の特色の一つである「豊かな体験活動」を具体的に展開する施設(教育課程の一環としての体験学習や集団宿泊体験活動を実施) ○学校教育活動に利用しない場合、青少年団体、青少年育成団体へ貸し出し <管理運営業務の主な内容> ○施設維持管理業務(清掃、機械設備保守点検、夜間警備等)-外部委託 ○窓口受付業務(青少年団体、青少年育成団体)-市職員 <参考> ○小・中学校等の体験学習が、教育課程に適切に位置づけられるよう学校を指導-市職員 ○青少年団体・青少年育成団体の体験学習支援-市職員				
事業の必要性	学校教育活動については、体験学習の充実が新学習指導要領で示され、本施設における体験学習は、本市学校教育における体験学習の中心的な役割を担っており、今後より一層重要となる。 また、青少年団体等の利用についても、自然体験、生活体験の減少が指摘される中、教育委員会が体験学習の場を提供していくことは必要不可欠である。					
コスト			平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
	事業費(直接経費)		千円	22,555 千円	28,855 千円	
	人件費	正規職員	従事者数	人	1 人	1 人
			概算人件費	0 千円	7,265 千円	7,265 千円
		嘱託職員・臨時職員等	従事者数	人	1 人	1 人
			概算人件費	千円	3,002 千円	3,002 千円
	人件費 合計		0 千円	10,267 千円	10,267 千円	
総事業費		0 千円	32,822 千円	39,122 千円		
市民一人あたりの事業費		0.00 千円	0.05 千円	0.05 千円		

		平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
財源内訳	国・県支出金	千円	千円	千円	
	受益者負担金	千円	千円	千円	
	その他(施設使用料)	千円	666千円	1,000千円	
	一般財源	千円	21,889千円	27,855千円	
平成23年度事業費の主な内訳(人件費を除く)	項目			金額	
	燃料費、光熱水費(プロパンガス、電気、水道)			9,000千円	
	施設等管理運営委託料(建物総合管理業務、EV保守点検等)			12,204千円	
	使用料及び賃借料(浄化槽使用料、土地賃借料等)			4,877千円	
千円					
活動実績1	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	利用者数	人		5,291	6,500
単位当たりコスト1	(総事業費/活動指標)	千円		6.2	6.0
活動実績2	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	体験活動実施者数	人		19,744	25,000
単位当たりコスト2	(総事業費/活動指標)	千円		1.7	1.6
成果目標 (現状の成果及び今後どのようにしたいか、定量的な評価で示す)	<p>昨年度は開所初年であり、様々な形で施設の周知活動を行ってきたところ、約5000人に新たな体験活動の場を提供できた。</p> <p>2年目を迎え、より多くの市民等に宿泊体験学習等の場を提供していくため、引き続き周知活動に取り組むとともに、体験活動の内容の更なる充実を図り、利用者の満足度を高め、稼働率の向上に努めていく。</p>				
成果実績	成果指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	稼働率	%		60	65
特記事項 (事業の沿革等)					
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<p>本施設では主に学校教育の教育課程に基づく活動が展開されていること、また、その立地条件も山間部であることなどから、その管理運営は教育委員会が行っている。</p> <p>今後、より多くの子どもたちへ豊かな宿泊体験学習の場を提供していく上で、一層効率的な管理運営の可能性を探るため、指定管理制度の導入の可能性について検討を進めていく。</p>				
評価	《評価の視点》	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない ・ 有効性 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない ・ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない 			
	《評価の区分》	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充			
	《評価区分の理由》	<p>学校教育における体験学習の推進や市民への体験学習活動支援等は、学校教育、社会教育を担う教育委員会において今後ますます重要な役割となるとともに、特に、教育課程内の学習では、学習指導要領の狙いや市の教育方針等に沿った活動が求められることから、その管理運営は教育委員会が実施していく必要がある。さらに、本施設においては、開設後生じた想定外の課題についても直営により弾力的な対応が図られたこと、その立地条件に伴う受け手不足という点から、教育委員会が管理運営を行い、宿泊体験学習施設としての役割を果たしていくことが適当である。</p> <p>なお、今後、施設維持管理業務、教育課程に基づかない青少年団体等の利用受付や体験活動支援等への指定管理者制度の導入が管理運営の効率化に資するかについて、教育課程に基づく活動に配慮しつつ検討を行うものとする。その際、本施設の立地条件に伴う受け手不足や周辺地域の活性化という観点から、地域でのNPO法人設立等の手法についても併せて検討を進める。</p>			
H24年度予算への反映	精査を行った上で、必要な予算を計上				
経営評価委員会による意見	<p>●現状維持 ⇒ 見直し</p> <p>・目的を同じくした施設であり、小学生を中心として必要性は高いものの、運営の効率性について検証を行った上で、利用者へ選択の幅を広げるため、両施設の立地など特色を活かした運営を行う必要がある。</p>				